

1 事業団の主な事業

大阪市における休日、夜間の初期救急医療として、内科・小児科については、6か所の休日急病診療所において、年末年始を含む休日の昼間に診療を実施し、中央急病診療所においては、1年を通して翌朝までの夜間診療を行っている。さらに中野休日急病診療所では、小児科の平日夜間診療を行っている。

特定科目(眼科・耳鼻咽喉科)については、中央急病診療所において、年末年始を含む休日、土曜日の昼間と1年を通して夜間診療を実施している。

急病診療所受診患者のうち、より精査が必要な患者や入院を要する患者に対応するために、病院群輪番制等により後送病院を確保し、患者を受け入れてもらっている。

2 事業団が大阪市の行政目的又は施策の達成のために求められる役割と役割を果たすために行う事業経営の具体的な内容

(1) 大阪市の行政目的又は施策の達成のために求められる役割

大阪府医療計画に基づき市町村の役割としてある初期救急医療体制を確保するため、市内において休日・夜間の急病診療事業を実施すること

(2) 役割を果たすために行う事業経営の具体的な内容

(ア) 医師等の医療従事者の確保・・・看護師を安定的に雇用するために実施する事項
急病診療所を安定的に運用するために、離職を抑制し一定の経験のある看護師の割合を少なくとも現状と同水準に保つ。

(イ) 後送病院との連携・・・後送病院確保のために実施する事項

患者を受け入れた後送病院に対して、「患者診療実態調査票」を送り、後送した患者の実態を把握するとともに、意見や要望等があれば調査票に記載してもらうことで問題点や課題の把握・解消に努め、患者のスムーズな受入れ体制の維持を図る。

3 令和6年における事業経営の成果への貢献度を示す指標及び行動計画

(1) 看護師を安定的に雇用するために実施する事項

(ア) 看護師に対する採用時研修の実施

看護師の新規採用者に初期救急医療の現場で働く自信と対応力を身につけてもらうための研修カリキュラムを作成し、個々の新規採用者の経験やスキルに応じた研修を実施する。

令和6年の指標及び目標

指標 I	採用時研修における受講者満足度	目標 80%
------	-----------------	--------

【行動計画】

- ・休日・急病診療所特有の業務に携わるにあたっての知識や技術の習得を目的として、全ての新規採用者に対して経験やスキルに応じた研修を個別に実施する。
- ・指導看護師の意見を取り入れ、研修マニュアルや指導内容の更なる充実を図る。
- ・受講者アンケートにより受講者の満足度を確認し、改善に努める。

(イ) 看護師に対するスキルアップ研修の実施

初期救急医療の現場に求められるトリアージへの判断力などの対応力をより一層高めてもらうためのレアケースや困難ケースへの対応なども盛り込んだ研修計画を作成し、個々の看護師の経験やスキルに応じた研修を実施する。

令和6年の指標及び目標

指標Ⅱ	スキルアップ研修の受講者満足度	目標 80%
-----	-----------------	--------

【行動計画】

- ・知識や技術の習得を目的として、初期救急医療業務を中心に医療全般に関するテーマの研修を、2回実施する。
- ・医師会等の外部機関の研修を取り入れるなど多種多様な研修を受講させる。
- ・受講者アンケートにより受講者の満足度を確認し、改善に努める。

(ウ) 看護師に対する感染予防研修の実施

休日・夜間の初期救急医療を担うためには、感染症に対する知識が必要であることから、感染症の流行状況を勘案しながら、消毒や PPE の着脱方法などの研修を実施し、適切な感染予防策を身につけ、感染への懸念の軽減及び院内感染防止に繋げる。

令和6年の指標及び目標

指標Ⅲ	感染予防研修の実施回数	目標 1 回
-----	-------------	--------

【行動計画】

- ・新興感染症を含む感染症について、疾患の理解と予防策の習得を目的として感染予防研修を、1回実施する。
- ・感染拡大防止や受講者の参加しやすさの観点から web 研修を実施したところ、参加率が上がり、高評価であったため継続する。
- ・受講者アンケートにより受講者の満足度を確認し、改善に努める。

(エ) 勤続3年以上の看護師の割合

急病診療所においては、救急医療の経験が豊富な看護師が安定的に雇用され、診療の補助を行うことにより医師の負担が軽減され、急病診療所の安定的な運営を保つことができることから、上記(ア)～(ウ)の取組の効果を評価する指標として、勤続3年以上の看護師の割合を単年度においても評価する。

令和6年の指標及び目標

指標Ⅳ	勤続3年以上の看護師の割合	目標 60%
-----	---------------	--------

(2) 後送病院確保のために実施する事項

(ア) 後送病院に送付した患者診療実態調査票の回収

後送病院へ送付した「患者診療実態調査票」を回収することにより、患者実態を把握するとともに、後送に対する問題点の把握や解消を図る。

令和6年の指標及び目標

指標Ⅴ	患者診療実態調査票の回収率	目標 95%
-----	---------------	--------

【行動計画】

- ・患者を受け入れた後送病院に対して、調査票を送付し、後送した患者の実態把握を行うとともに、意見や要望等があれば調査票に記載してもらうことで問題点や課題の把握・解消に努める。
- ・患者を受け入れた全ての後送病院に対して調査票(令和6年4月から11月送付分)の回収を行い、回収率95%を目標に取り組む。(年度末回収率は100%)
- ・調査票の提出が遅れている病院に対して電話にて返送を促す。

(イ) 患者診療実態調査票に記載された意見等への対応

患者診療実態調査票に記載された意見に対応し後送病院との連携を図ることにより、患者を適切に処置し、後送病院に患者を適切かつスムーズに受け入れてもらえる体制の維持を図る。

令和6年の指標及び目標

指標Ⅵ	意見等に対する対応率	目標 100%
-----	------------	---------

【行動計画】

- ・患者を受け入れた後送病院に対して、調査票を送付し、後送した患者の実態把握を行うとともに、意見や要望等があれば調査票に記載してもらうことで問題点や課題の把握・解消に努める。
- ・後送病院からの意見に対しては、対応の方向性や対応結果、考え方等について返答を行うとともに、必要に応じて出務医師へのフィードバックを行い、対応率100%を目標に取り組む。

(ウ) 後送病院数の維持(現状:33)

後送病院との連携を密にし、患者の受入体制を維持することは急病診療所の運営において非常に重要であることから、上記(ア)、(イ)の取組の効果を評価する指標として、中期目標に掲げる後送病院数を単年度においても評価する。

令和6年の指標及び目標

指標Ⅶ	後送病院数	目標 33
-----	-------	-------

4 令和6年度における財務運営における目標

(1) 物件費の節減

一層の固定的経費の抑制に努めるとともに、職員のコスト意識を高め予算を効率的に執行していく。

令和6年度の指標及び目標

指標Ⅰ	診療収入百万円当たりの物件費	目標 263,842 円
-----	----------------	--------------

(2) 未収金の縮減

患者自己負担金の請求を適正に行い、未収金発生防止に努めるとともに、督促の回数の増加など、未収金対策を強化する。

令和6年度の指標及び目標

指標Ⅱ	診療収入百万円当たりの患者窓口未収金額	目標 642 円
	(当該年度分)	